

# 中能登町復興まちづくりニュース



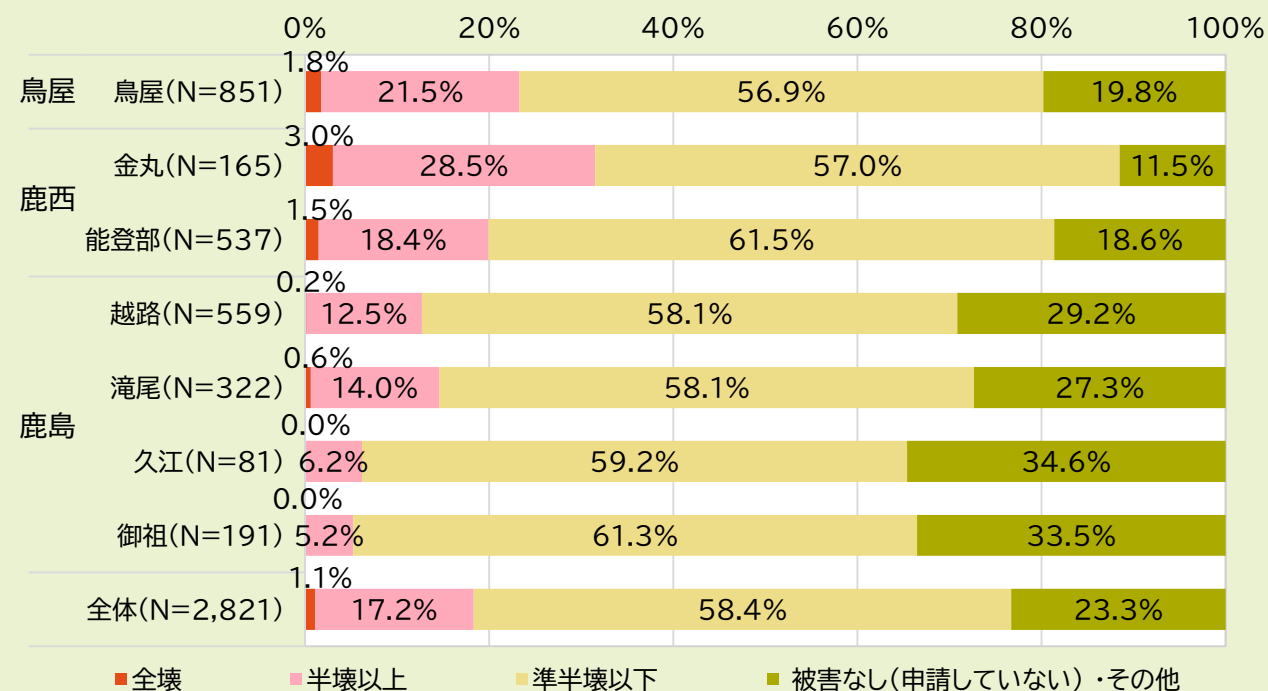
令和6年 9 月 26 日 発行:中能登町震災復興対策室 第3号

## アンケート調査結果を報告します

前号(中能登町復興まちづくりニュース第2号)に引き続き、「中能登町復旧・復興プラン策定に関するアンケート調査」の回答結果の詳細について、ご紹介します。

### ● 建物の被災状況

大きな被害を受けた建物(割合)は、鳥屋・鹿西地区で多くなりました。



### ● 震災前からの備蓄品

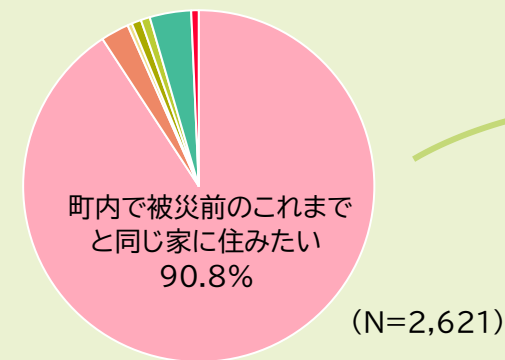
- 1 光源(懐中電灯など) 74.9%
- 2 飲料水 64.9%
- 3 食料 54.4%
- 4 ラジオ 43.6%
- 5 ライター・カセットコンロ 41.8%

### ● 震災後に増やした備蓄品

- 1 飲料水 77.4%
- 2 食料 50.3%
- 3 非常用トイレ 26.9%
- 4 医薬品・衛生用品 20.2%
- 5 電源(電池・発電機) 15.2%

### ● 今後の住まいについて

9 割以上の町民が震災前と同じ場所の住まいを希望しています。

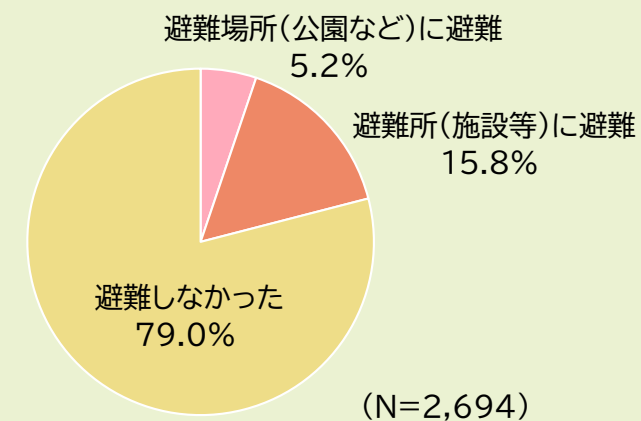


#### ○「被災前と同じ家に住みたい」地域別

|    |     |       |
|----|-----|-------|
| 鳥屋 | 鳥屋  | 90.4% |
| 鹿西 | 金丸  | 86.3% |
|    | 能登部 | 90.2% |
|    | 越路  | 92.2% |
| 鹿島 | 滝尾  | 92.9% |
|    | 久江  | 93.3% |
|    | 御祖  | 95.4% |

### ● 震災直後の避難状況(再掲)

地震発生後に避難した人は町全体で2割程度でした。



#### ○ 公園などに避難した回答割合(地域別上位)

- 1 金丸 8.5%
- 2 鳥屋 5.4%
- 3 滝尾 5.2%

#### ○ 施設などに避難した回答割合(地域別上位)

- 1 久江 25.3%
- 2 能登部 19.7%
- 3 鳥屋 19.3%

## みなさまのご意見をお聞かせください

今後、地域での説明会を開催します。困っていることや、アンケート結果やタウンミーティング結果を見て感じたこと、中能登町が進める「復興まちづくり」に対するご意見などをお聞かせください。

《お問い合わせは》 中能登町 総務課 震災復興対策室

電話:0767-72-3934 メール:fukkou@town.nakanoto.ishikawa.jp

住所:〒929-1692 中能登町能登部下 91 部 23 番地 (行政サービス庁舎)

## タウンミーティングを開催しました

8月23日(金)、24日(土)、25日(日)に「タウンミーティング」を開催しました。  
小中学校親子を含む、合計 75 名の方にご参加いただきました。

### 《タウンミーティング内容》

- ① 町長あいさつ
- ② 能登半島地震 中能登町内被害の概況説明がいききょう
- ③ ワークショップ 1) 地震発生時の行動  
2) 困ったこと・考えたこと・解決方法

### ● タウンミーティングの様子



### ● 町長あいさつ(発言要旨)

中能登町は、これまでになく未曾有の地震被害を受けました。発災直後から応急復旧を経て、町職員や行政だけでできることは、限られていると痛感しています。

特に、発災直後の応急期には、地域の自主防災組織との連携の重要性を実感しました。今後、自主防災組織や防災士の対応方法をゼロから検討し直し、防災に強いまちを創っていきたく強く感じています。

今回のタウンミーティングを通じ、行政と町民のみならず、いっそうきょうこをより一層強固に、共に創造と議論を重ねて、参りたいと思います。

### ● ワークショップ 各グループのとりまとめ意見(要旨)

#### 困ったこと・考えたこと

##### 〈水のこと〉

- ・水が出ない ・いつまで断水が続くか不安
- ・トイレ、風呂が使えないストレス ・水を汲むタンクがない
- ・家の井戸を利用できた ・知人に井戸の場所を教えてもらった

##### 〈情報の発信と活用〉

- ・情報が足りなかった ・SNS で情報を収集した  
(避難ルート、支援物資、炊き出しの場所・時間、給水場所、病院の開業情報、学校の再開時期、行政からの支援情報)

##### 〈地域の助け合い・つながりのこと〉

- ・自主防災組織が機能しなかった、担当として対応できなかった
- ・防災士がもっと活動できるとよかった
- ・自分のこと、家のことが心配で、地区への対応ができなかった

##### 〈避難所のこと〉

- ・避難所のリーダーがいないと機能しなかった
- ・避難所によって運営力に差があった
- ・どこに避難したらよいかわからなかった
- ・地区集会所に人が集まった ・地区集会所の耐震性が不安

##### 〈必要な備えと、モノ・設備のこと〉

- ・食料の確保に不安を感じた
- ・備蓄食料の賞味期限が切れていた
- ・ガソリンを給油できない
- ・避難所が寒かった ・停電にならなくてよかった

#### 解決のヒントや手段

##### 〈水資源マップの作製〉

- ・町全体の資源になるようにマップにまとめる
- ・湧き水、農業用水を活用する

##### 〈情報について〉

- ・普段から非常時の情報発信に慣れておく
- ・町や地区が連携し、膨大な情報をコントロールする
- ・連絡、安否確認体制の確認

##### 〈防災訓練を継続的に実施〉

- ・様々な事態を想定して訓練する
- ・楽しい訓練を企画し、地域ぐるみで訓練する
- ・地域コミュニティの運営方法も訓練する
- ・震災に対して知恵をつけたい

##### 〈あらかじめの役割分担・避難所のこと〉

- ・地区ごとに災害対策組織を確立
- ・防災士の連携体制を決めておく
- ・地域共助の拠点となる場所を決めておく
- ・避難できる場所を増やす

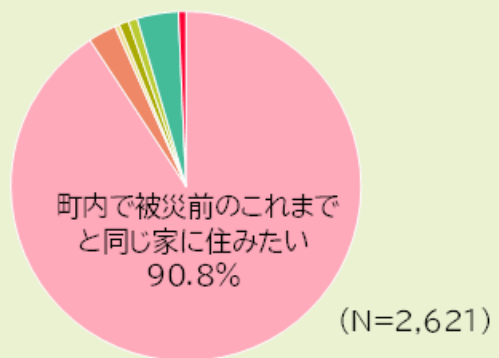
##### 〈必要な設備〉

- ・避難所の設備強化(空調、炊き出し用調理場、発電機、再エネ発電設備、貯水タンク、蓄電池)
- ・商業施設から物資を入手できるという
- ・避難所備蓄情報の把握 ・個人と地域で備蓄

### ● 感想(抜粋)

- ・今回の震災の教訓をずっと生かせるように風化させないように、このような機会を定期的に継続してほしい。
- ・具体的な対策が大事だと思う。その地域にあった対策が必要でまちとして何に力を入れていくのかをはっきりしていけばと思う。
- ・一人一人が意識を持つことが大事だと思います。
- ・全体的に思い(水、地域のつながり等)は共通していると感じました。
- ・若い方の参加も望みたい。

- ・これからどんな町にしたいかの話もしたかった。
- ・地域コミュニティの大事さが分かった。
- ・もう少しハッキリしていることをしっかり、町長が説明・案内すべき。
- ・県の支援が奥能登6市町だったり、支援がこちらまで届かないことも多い。被害が大きい人たちに着実に支援が届くような仕組みを。
- ・多くの町民が(タウンミーティングに)参加できるよう開催時間に柔軟な対応を。



|    |     |       |
|----|-----|-------|
| 鳥屋 | 鳥屋  | 90.4% |
| 鹿西 | 金丸  | 86.3% |
|    | 能登部 | 90.2% |
| 鹿島 | 越路  | 92.2% |
|    | 滝尾  | 92.9% |
|    | 久江  | 93.3% |
|    | 御祖  | 95.4% |

## 避難

1 金丸 8.5%

2 鳥屋 5.4%

3 滝尾 5.2%

1 久江 25.3%

2 能登部 19.7%

3 鳥屋 19.3%

1 御祖 86.6%

2 越路 85.4%

3 滝尾 82.3%

## 仕事の変化

1 変化なし 91.4%

2 仕事を辞めた 3.2%

3 休んでいる 1.5%

4 転職・創業・企業 1.2%